

Mランドニュース Vol.220

丹波ささ山校 令和7年8月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569

TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 近藤 正幸

<https://www.sasayama-ds.com/>

E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

「どんな仕事でも、一番になろうと思わなければ、二番にもなれない」

松下幸之助

ナンバーワン研修

共習・共育部

リーダー 長谷川 泰之

Mランド丹波ささ山校では、毎年七月一日をナンバーワンの日と定め、より良い教習を目指すための研修会を行っています。今年は新たに三名の仲間が加わり、様々な意見が活発に飛び交いました。



今日はゲスト側です

まずは環境面についてです。経年劣化によるアスファルトの補修やコース内の植木の剪定、交差点の看板の増設など、本来なら業者に任せるような内容でも、職員自ら積極的に取り組みます。自分たちで知恵を出し、工夫することで施設への愛着も一層深まります。全てはMランドにお越しいただくゲストのため。良いと思ったことはど

んどん取り入れ、より快適な環境づくりに努めています。



所内コース

次に教習面です。他教習所出身の職員が増え(かくいう私もその一人です)、インストラクター間での判断基準や指導方法に違いが見られるようになりました。しかし、私たちはこれをマイナースとは捉えません。考え方が違うということは、それだけ多くの選択肢があるということ。まさに千差万別、十人十色、日本には多様性を是とする文化が根付いています。本校の方針を一方的に押し付けるのではなく、まずは理解していただく。その上で、各教習所の長所を取り入れることで、さらなる進化ができると思っています。

私たちはMランドの職員として、その期待を上回るサービスを提供しなければなりません。ありがとうございますカードやボランティア活動、そして挨拶。他の教習所では体験できないMランドの独自性を活かして、ご卒業される際に「Mランドに来て良かった」と思っていたければ、これに勝る喜びはありません。そのためにも職員一同、一丸となってこれからも精進を続けてまいります。ありがとうございます。ありがとうございました。

研修を終えて

顧客・環境課

佃 直人

先日、社内研修が行われ、教習の質向上と統一について深く議論する貴重な機会となりました。研修に先立ち、代表からは上半期の集客状況について発表がありました。全体としてはマイナスイメージでしたが、この数字を少しでもプラスに転じるべく、私も営業の一端を担えるよう尽力していきたいと強く感じました。

今回の研修では、事前実施したアンケートに基づき、二班に分かれて話し合いが行われました。場内教

習については、コース整備や教習の進め方、検定をスムーズに行う方法など、合理的な教習のあり方について意見を交わしました。路上教習では、高速教習や検定を含め、駐停車場所に関する情報共有が十分でなかった点が課題として挙げられました。

もう一つ印象に残ったのは、見通しの悪い横断歩道への接近についての議論です。技能検定の採点基準にある適用事項はもちろんです。しかし、この話題が出たことで、昼休み中もその場所を通行する際の指導方法について活発な意見交換がなされ、盛んに議論が交わされました。研修を通じて、職員全員の教習に対する熱意を肌で感じることで、私自身も、皆さんと共に一層頑張ろうと思える良い機会となりました。このような熱い気持ち、必ずや集客にも繋がっていくものと信じています。

短冊に願いを込めて

サービス課

浦山 朱音

今年も、Mランド丹波ささ山校のロビーに、七夕飾り

が登場しました！二階まで届く大きな笹を立てると、ロビーが一気に華やかになり、七夕の雰囲気包まれます。



丹波篠山の笹です

毎年恒例のこの飾り付けは、私たちスタッフも楽しみにしている行事の一つなんです。笹の横には短冊をご用意し、訪れる皆さんに自由に願い事を書いてもらっています。



願いは一つ!

今年もたくさんさんの短冊が笹の葉を彩っていますが、やはり一番多いのは「試験に合格できますように」「卒検、一発合格!」といった、ゲストの皆様の熱い願いですね。中には「試験の日が晴れますように」「なんて可愛らしいお願いもあって、思わず笑顔になってしまいます。皆さんの真

剣な眼差しが伝わってきて、
私たちも全力で応援したく
なりますね！

高齢者講習で来られた
方々も、慣れた手つきで達
筆な願い事を書いてくださ
り、その姿に温かい気持ちに
なりました。それぞれの願い
が込められた短冊が風に揺
れる様子は、見ていて心が和
みます。

皆さんの願いがMランドの
笹に集まり、どうか叶いま
すように。私たちも、皆さ
んの願いが叶うよう、精一
杯サポートさせていただきます！



叶いますように

快気報告

共習・共育部

部長 南勝 宏幸

今年三月十八日、繁忙期
が続く中、いつものように出
勤しようとしたところ腰に
激痛が走り、突然歩けなく
なってしまうました。以前よ
り持病で腰痛はありました

が、歩けなくなったのは初め
ての経験で、大きな戸惑いを
感じました。

何とか近くのクリニックで
診てもらったところ、腰椎椎
間板ヘルニアと診断され、休
養することになりました。し
かし、一向に改善する兆し
が見られなかったため、切開
手術を決定しました。これ
まで健康で大きな病気や入
院、まして手術の経験もな
かった私にとって、手術は非
常に緊張するものでした。

しかし、主治医をはじめ、看
護師の皆さんが私だけでな
く多くの患者に対し、日夜
問わず細やかな気配りをし
てくださることに驚きと感
動を覚えました。

無事に手術を終え、療養
期間を経て職場に復帰でき
たのは約四十日後のことです
た。この経験を通じて、「人
は一人では生きていけない。
たくさんの方の支えを受けな
がら生きている」ということ
を痛感しました。

この間、温かく支えてく
ださった職場の皆様、そして
毎日看病をしてくれた妻に
は、大変な心配をおかけし
たお詫びと、心からの感謝の
気持ちでいっぱいです。そし

て、何よりも健康な体がど
れほどありがたいことである
かを改めて気づかされた期
間となりました。

この痛みや苦しみはでき
れば二度と経験したくない
ものですが、この苦しみがあ
ったからこそ気づけたことや
当たり前にある日常がいかに
幸せなことなのかを再認
識させてもらえました。

まずは、健康な体に生命
を与えてくれた両親に感謝
すると共に、この夏は心も熱
く、少しずつでも元気に恩
返しできるよう、日々の業
務に研鑽してまいりますの
でよろしく願います。

家族と共に

この度、Mランドでは職員
の子どもたちの卒業や入学
といった節目を祝う新たな取
り組みがスタートしました。
これは、日頃からMランドを
支えてくれる職員とその家
族への感謝の気持ちを表す
ものです。

未来を担う子どもたちの
門出を応援する。そんな温
かい気持ちで込められた今
回の制度は、職員の皆さんに
も大変喜んでいただけまし
た。今回は、実際に祝いを受

け取った職員からの声を紹
介します。

共習・共育部

林 美枝

息子の大学入学祝い金を
会社からいただけたとは思っ
てもいなかったもので、その知
らせを聞いたときは思わずニヤ
リとしまいました。先輩
方からは「小学から中学、
高校、大学とステージが上が
ることに必要なお金のゼロが
一桁増えるよ。小さい頃か
ら貯金しておきなよ」と言
われていました。いざその
時になると、なかなか貯金な
どできず。だからこそ、私
の素直な気持ちが顔に出て
しまったのだと思います(笑)。

息子は五歳からフィール
ドホッケーを続けており、こ
の度、その名門校に入学し、
勉強との両立に励んでいま
す。



ホッケーはスティックやシュ
ーズが消耗品で、かなり高
価なため、いただいたお祝い

金は頑張っているホッケーの
道具に使わせていただくこと
を考えています。それこそが、
会社からいただいたお祝い金
の、一番意味のある使い方だ
はないかと感じています。息
子も感謝の気持ちをもち、
大切に使い、今よりもレベル
アップしたプレーに繋げてく
れると信じています。

本当に会社には感謝しか
ありません。ありがたく使
わせていただきます。ありが
とうございます。

「息子より」

お祝い金ありがとうございます
ました。

Mランドは、職員一人ひと
りが安心して働き、その家
族も共に喜びを感じられる
場所でありたいと願っていま
す。今回の取り組みを通じ
て、職員とご家族との絆
がさらに深まり、より一層
温かい「家族のような繋がり」
を築いていけることを期待し
ています。これからもMラン
ドは、職員と家族の幸せを
応援し、共に歩んでまいり
ます。

編集後記

七月下旬より夏の繁忙期
に入り、多くのお客様をお
迎えしています。期待を胸

【掃除に学ぶ会】のご案内

私たちと一緒にトイレ掃除をしませんか？

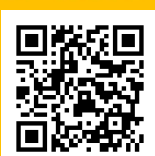
- 場所 Mランド
- AM8:00～AM9:00

※トイレ掃除のできる服装でお気軽にご参加ください。

Mランドニュース メール配信対応!

ご要望にお応えし、PDF版メール配信を開始します。

変更をご希望の場合は→



※メール配信の場合、郵送はいたしません。

にご入所してくださる皆様
に心より感謝申し上げます。
ご入所いただいた皆様には、
その期待を上回る最高のサ
ービスを提供するため、職
員一同、精一杯努めてまい
ります。一人ひとりのお客
様との出会いを大切に、記
憶に残る夏にできるよう精
進してまいります

近藤 正幸